

01-011

新生児の痛みのケア定着に向けた取り組み

山本 裕希子、荒井 嗣美、宮内 安紀子、
高橋 香菜美、岡田 絵里子、土古 隆子

地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院

【目的】

「新生児の痛みのケアガイドライン」を認識し痛みのケアが定着する。

【方法】

研究期間：平成30年10月～12月

研究対象者：NICUスタッフ29名、NICUに入院しており親より同意を得た新生児51例

研究方法：新生児の痛みの解剖・痛みのガイドライン・非薬理的緩和法の実践・日本語版Premature Infant Pain Profile（以下PIPP）の使用法の勉強会を開催

勉強会前後に痛みのケアに対する現状をNICUのスタッフにアンケートを用いて5段階評価で実施

勉強会前後にPIPPを用いて採血・血糖測定時の児の痛みの評価を実施

上記アンケートのデーターをマンホイットニー検定、PIPPをt検定で統計学的分析を実施。

【倫理的配慮】

院内の倫理審査委員会で承認を得た（承認番号2018091813）。アンケートは無記名とし返信をもって研究参加への同意とみなした。対象家族には文面をもちいて研究主旨の説明をし同意を得た。本研究での利益相反はない。

【結果】

勉強会を行う前のPIPPの総得点の群（以下A群）、勉強会を行った後のPIPPの総得点の群（以下B群）を比較すると平均値はB群がA群より5.44点（ $P<0.05$ ）下回った。「痛みのケアを意識している」の項目に対し勉強会前の5段階評価アンケートでの平均値4.103であり、勉強会後の平均値4.345で $P<0.073$ と有意差がみられなかった。「痛みのケアの実践について勉強会前後でスタッフに痛みのケアを依頼するようになったか」の問いに対し、勉強会前の平均値2.654勉強会後の平均値4.192（ $P<0.05$ ）であった。自由記載には「児が受ける痛みの影響や非薬理的緩和法の効果を知り、痛みのケアを実践するようになった」「痛みのガイドラインを理解できた」という意見があった。

【考察】

アンケート結果より、スタッフの痛みのケアの意識は勉強会前からあったことが分かった。勉強会を開催し、ケア提供者である看護師が新生児の痛みに対する共通認識がもて、二人一組となって非薬理的緩和法を用いて痛みのケアができるようになった。勉強会後のPIPPの総得点の平均が下回っていることから、痛みのケアの質の向上につながったと言える。

【結論】

勉強会を開催したことでスタッフの痛みに対する意識の向上と行動変容が起きた。

児が痛みを伴う処置の前から非薬理的緩和法を用いてスタッフが介入できるようになった。

01-012

哺乳終了後の経過時間と採血時の痛みについて

小林 朋佳¹、益田 瞳¹、齊藤 恵美子¹、松本 聡子²

¹NTT東日本関東病院 小児科

²NTT東日本関東病院 品質保証室

【目的】

痛みは、体温・呼吸・心拍、血圧に加え、第5のバイタルサインとされており、近年痛みに対する医療者の関心が高まっている。小児の痛みの評価法は少なく、新生児領域では未熟児や早産児を対象としているものが大半である。医療の質の改善の取り組みとして、採血時の痛みの評価と緩和法について検討した。

【方法】

当院で出生した健常新生児の先天性代謝異常等検査採血を日齢4に実施している。表情・啼泣・呼吸パターン・上肢の動き・下肢の動き・覚醒度（NIPS: Neonatal Infant Pain Scale）とSpO2値、心拍数を指標に用いて、採血者や採血介助者が新生児の採血時の痛みを評価した。また、採血部位（足底・手背）、採血道具（ランセット、18G、23G）、直前哺乳の有無により、痛みの違いがあるかどうかを評価し、痛みの緩和を必要時実施した。

【結果】

NIPSスコアの合計得点は、最小が0点、最大7点となるが、対象308名の新生児の採血前のNIPSスコアは平均 1.6 ± 2.7 点、採血中 4.0 ± 3.1 点、採血後 3.0 ± 3.3 点であった。最終哺乳から採血までの時間は平均77分、採血に要した時間は1分21秒、採血前の心拍数は136回/分、採血中157回/分、採血後147回/分であった。SpO2は採血前・中・後97%であった。

採血中・後のNIPSスコアは、心拍数と強く正に相関した。採血中・後のNIPSスコアは最終哺乳から採血開始までの時間とSpO2値と相関したが、採血に要した時間と相関しなかった。採血中・後のNIPSスコアに影響した因子は、採血部位、哺乳から採血開始までの時間、採血前のNIPSの3項目であり、具体的には足底からの採血、哺乳から採血開始までの時間が長く、採血前のNIPSスコアが高得点の場合は、採血中・後のNIPSスコアが有意に高かった。

最終哺乳から採血開始までの時間（直前哺乳の有無）に注目した結果、最終哺乳から採血開始までの時間が75分以下であった新生児のNIPSスコアが3点以下であり、痛みが弱い傾向があった。

【考察】

シヨ糖を用いた痛みの緩和報告や直接母乳授乳を推奨している海外のガイドライン例がある。おしゃぶりなどを用いる痛み緩和は、多くの施設で採用されている。一方、むせこみ、SpO2低下、心拍数の低下または上昇、無呼吸等の副作用の報告や、授乳という赤ちゃんにとって心地良い食事の時間に痛みを伴う処置をしてよいのか、等の問題がある。